

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**新設高等学校(京都市地区)**

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>								<b>3.2</b>
<b>1.1 騒音</b>								
	1	室内騒音レベル	普通教室の室内許容騒音レベルを資料から評価	4.0	0.40	-	-	
	2	設備騒音対策		4.0	1.00	1.0	-	
<b>1.2 遮音</b>				3.6	0.40	-	-	
	1	開口部遮音性能		3.0	0.40	1.0	-	
	2	界壁遮音性能		3.0	0.26	1.0	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		5.0	0.17	1.0	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		5.0	0.17	1.0	-	
	1.3	吸音		1.0	0.20	1.0	-	
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.6</b>
<b>2.1 室温制御</b>								
	1	室温	3.0	0.50	1.0	-	-	
	2	負荷変動・追従制御性	-	-	-	-	-	
	3	外皮性能	3.0	0.36	1.0	-	-	
	4	ゾーン別制御性	3.0	0.06	-	-	-	
	5	温度・湿度制御	-	-	-	-	-	
	6	個別制御	-	-	-	-	-	
	7	時間外空調に対する配慮	-	-	-	-	-	
	8	監視システム	-	-	-	-	-	
	2.2	湿度制御	1.0	0.20	1.0	-	-	
	2.3	空調方式	3.0	0.30	1.0	-	-	
<b>3 光・視環境</b>								<b>3.6</b>
<b>3.1 昼光利用</b>								
	1	昼光率	●自然 A(全国版準用)	4.2	0.30	-	-	
	2	方位別開口	●自然 B(推奨内容)	5.0	0.60	1.0	-	
	3	昼光利用設備	●自然 B(推奨内容)	3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>								
	1	照明器具のグレア		4.0	0.30	-	-	
	2	昼光制御	●自然 B(推奨内容)	4.0	1.00	1.0	-	
	3	映り込み対策		-	-	-	-	
	3.3	照度		3.0	0.15	1.0	-	
	3.4	照明制御		3.0	0.25	1.0	-	
<b>4 空気質環境</b>								<b>3.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>								
	1	化学汚染物質		5.0	0.50	-	-	
	2	アスベスト対策		5.0	1.00	3.0	-	
	3	ダニ・カビ等		-	-	-	-	
	4	レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>								
	1	換気量	●自然 A(全国版準用)	3.0	0.30	-	-	
	2	自然換気性能		3.0	0.35	3.0	-	
	3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.29	1.0	-	
	4	給気計画		3.0	0.35	1.0	-	
<b>4.3 運用管理</b>								
	1	CO <sub>2</sub> の監視		2.0	0.20	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
				1.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>								<b>3.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
	1	広さ・収納性		3.0	0.40	-	-	
	2	高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
	3	バリアフリー計画	●大切 D(独自基準)	3.0	1.00	3.0	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>								
	1	広さ感・景観	●とも C(独自加点)	3.8	0.30	-	-	
	2	リフレッシュスペース	●とも C(独自加点)	5.0	0.43	3.0	-	
	3	内装計画	●とも D(独自基準)	3.0	-	-	-	
	1.3	維持管理		3.0	0.57	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.5	0.30	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		4.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>3.6</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>								
	1	耐震性		3.6	0.31	-	-	
	2	免震・制振性能		3.8	0.48	-	-	
	1	耐震性		4.0	0.80	-	-	
	2	免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>								
	1	躯体材料の耐用年数	●大切 A(全国版準用)	3.9	0.33	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		5.0	0.23	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		5.0	0.09	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		5.0	0.15	-	-	
				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性					2.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非常用発電機の設置 浸水の影響がない設備	3.1	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.5	0.29	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり					4.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり			平均 階高さ3.81m	4.0	0.52	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	構造壁を外周部に配置し、内部空間の自由度を	4.0	0.48	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	2.0	-	
3.3 設備の更新性					3.5	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	機器を屋上等に設け更新・修繕のしやすさに配	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース			敷地内、建物屋上に将来対応可能なスペース確	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)	景観地区内であり、市の認定を受けている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	地域に開放されたカフェテリア、カフェテラスをもつ	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制				省エネ計算より転載	4.3	0.30	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用					3.6	0.20	-	-	3.6
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)		2.3	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光発電量を大きく設置	5.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=50%	5.0		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護					3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水					3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.6	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	雨水の中水利用	4.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.9	0.63	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				敷地内に既存建物があり、利用可能	5.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	集材材、ビニル床材、タタミをリサイクル品目を採用	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	府内産材利用を木材利用の10%以上とする	4.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体+GL工法、断熱はウレタン吹付を使用	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.1	0.22	-	-	3.1
3.1 有害物質を含まない材料の使用				全ての建材は☆☆☆または規制汚外対象外	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.3	0.68	-	-	
1 消火剤					2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					2.0	0.33	-	-	
3 冷媒					3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮					4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮					3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止				敷地内から大気汚染物質を発生しない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.6	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制				駐輪場、駐車場、管理用駐車場を設置	5.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	-	
2 振動					-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					2.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.61	-	-	
2 砂塵の抑制					1.0	0.17	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.21	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				公告用照明がない	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともにも使う 「自然」:自然からつくる